

報告文 業務表彰受賞について

令和3年度北海道開発局優良工事等（業務）表彰において、2業務の局長表彰の受賞ならびに2業務の部長表彰、1業務の i-Con 奨励賞を受賞しました。日頃ご愛顧いただいております関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

■北海道開発局優良工事等（業務）表彰 局長賞

『千歳川築堤盛土施工管理業務（札幌開発建設部）』 管理技術者 鈴木 智之
『一般国道12号 岩見沢市 大和こ線橋撤去施工計画検討業務（札幌開発建設部）』 管理技術者 高橋 慶行

■北海道開発局優良工事等（業務）表彰 部長賞

『沙流川空間利活用検討外業務（室蘭開発建設部）』 管理技術者 佐藤 正規
『北海道横断自動車道外 陸別町 事業計画検討業務（帯広開発建設部）』 管理技術者 石川 由憲

■北海道開発局 i-Con 奨励賞 2021

『一般国道233号 深川市 深川電線共同溝詳細設計業務（札幌開発建設部）』 管理技術者 鈴木 卓也

編集後記

コロナ禍の中、今年も無事に「ノート工営」第29号を発刊することができました。これも一重に関係者の皆様のご理解とご支援の賜物であり、心より御礼申し上げる次第です。

さて、昨年2月からの新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの暮らしや働き方も大きく変容しています。コロナ対策としての時差出勤、在宅勤務、Web 会議などはこれから一般化し、加えて「デジタル庁」が発足し、地方公共団体情報化システムの標準化が推し進められます。令和3年9月、総務省デジタル庁は関係府省会議において「地方公共団体の基幹業務等システムの統一・標準化」の方向性を定め、国は地方公共団体に標準化に必要な財源措置と、基準適合への支援が示されました。デジタル化の内容としては、住民基本台帳、国民健康保険など17業務のほか、インフラの点検・維持管理についてもデジタル化の対象となっています。

私たちの業務についても、電子入札、電子契約、電子納品などのデジタル化は進められていますが、今後、ICT、CIM、GISなどの活用のほか、インフラのストックマネジメントにかかるデジタル化が急がれています。例えば、道路や公園、上下水道などは台帳等によりデジタル化が可能、一方、市町村の普通河川は管理資料がないため不可能などの状態も見受けられます。いずれにしても、地方公共団体のデジタル化は待ったなしの状況です。

結びになりますが、

弊社は、1973年（平成5年）の再構築以来28年目を迎え、再来年は30年目の節目となります。この間、平成30年には「㈱開発工営社経営戦略」を策定し、経営理念として「変化の時代に適応できる企業へ」、「確かな技術と信頼に裏づけられた課題解決」、「人材育成と明るく活力のある社内環境の創造」を柱に据え活動してまいりました。今後、世の中は先行き不透明ではありますが、社員一同心をあわせてインフラ整備の一翼を担っていく所存でありますので、関係者の皆様におかれましては、引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（常務取締役・社内技術士会会長 野々村清隆）